

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

資料 1 - 2

全体評価

1 総評

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、青森市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、青森市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。 ※第2期中期目標 前文</p> <p>第2期中期目標期間（平成27年度から令和2年度まで）の最終年度となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部を設置し、オンライン授業環境などの学修環境の整備や感染対策に取り組み、可能な範囲で代替措置を講じながら、年間を通じて対面授業を実施し、教育の実施体制を維持したことについて、高く評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、様々な業務に制約が課せられる状況にあったが、可能な範囲で代替措置を講じ、積極的に業務を実施していることから、高く評価できる。 ○令和2年度の学校運営は、新型コロナ感染症拡大防止対策が中心であったと思う。多くの大学がリモート授業に置き換える中で、本学は積極的な学生支援を実施しながら、年間を通じて対面授業を実施し、教育の継続、水準の維持を果たした点は、大いに評価できる。 ○全体評価として概ね順調という自己評価であるが、コロナ禍という未経験の状況下での学校運営の上記業績を踏まえると、実質的には自己評価を上回る業績を上げられたのではないかと評価する。 ○危機管理対策本部の開催等により感染症対策を行いながら対面授業を継続したことについて評価できる。

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

また、秋田市での進学説明会の開催や、県内企業バスツアーのコース追加など、学生の確保及び支援につながる取組を行い、99.3パーセントという高い就職率を維持したこと、青森市をはじめとする自治体との連携や、学生が主体となる地域振興の取組など、積極的な地域貢献活動を継続したことについても評価できる。

その他の項目についても、順調に進捗しており、令和2年度の年度計画については、中期計画の達成に向けて、ほぼ計画どおりに実施したと評価できる。

○99%以上の高い就職率を維持していることに加え、令和2年度も、秋田市での新規の進学説明会実施や県内企業バスツアーのコース追加など、就職対策の充実を図っていることは評価できる。

○共同研究の実施、受託事業の実施及び教員の各種審議会の委員就任などに取り組み、青森市、県内市町村、県との連携を図っていることは評価できる。

○たとえば、教育分野では成績不良者の減少やリモート形式での留学体験、Wi-Fiなどの大学IT関連基盤の整備、食堂・売店などの満足度改善、県内企業バスツアーなどはA評価に値すると考える。また、地域貢献分野では学生の地域貢献活動・研究活動などの外部発表や国際芸術センターでの展示会・リモートワークショップなどはA評価に値すると思われる。さらに、業務運営の改善分野では青森市長との意見交換会の開催、財務内容の改善では費用対効果の観点から実施されている事業のスクラップアンドビルト、その他業務ではインフラ長寿命化計画の策定や国際芸術センター青森の5館連携協議会活動などはA評価が認められると判断される。

○全体の評価は、年度計画を十分に実施していると評価される項目に割合が高く、全体として概ね順調であるといえる。コロナ禍の年度評価であるため、活動を自粛された事業や活動もあって、全体的に厳しめの自己評価となっており、実態的にはより良好なパフォーマンスを示したと評価される。

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

2 業務の実施状況

教育研究等の質の向上（教育、研究及び地域貢献）に関して、新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部を設置し、感染対策を行い、対面授業を継続している。

オンライン授業等の環境構築、リモート留学の試行や留学生に対するオンライン授業による支援を実施している。

アクティブラーニング室における授業が令和元年度の330コマから379コマへと増加しており、学生の主体的・能動的学習が実施されている。

必要に応じてウェブ開催等の代替措置を講じながら、地域貢献に取り組んでいる。

業務運営の改善及び効率化に関して、教員職員の人事評価について、他大学等の調査を行い、評価基準や評価項目、評価手順等を検討し、試行している。

経営・財務内容の改善に関して、財務状況の分析を行い、支出内容の精査や業務改善、事務事業の効率化に努めるとともに、重点事業や新規事業への優先的な予算配分や事業の見直しなどのスクラップ・アンド・ビルドを行い、効率的な予算執行を図っている。

その他業務運営に関して、「公立大学法人青森公立大学インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）」の策定のほか、安全管理、法令順守等の取組を継続している。

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

全体評価

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>大学院課程については、志願者の確保に向け、教育の実施体制及び内容の検討を求める。</p> <p>教員職員を対象とした人事評価について、早期の本格実施を求める。</p> <p>研究関連収入及び寄付金等の外部資金確保に向けた取組を求める。</p>	<p>○大学院の入学者数の評価の B は甘すぎると感じた。明らかに目標値の 1 / 3 の水準であり、C 評価が妥当ではないか。様々な改善努力をしており、単年度の数値で評価すべきではないともいえるが、社会科学系の大学院入試は厳しい環境下であり、その位置付けや抜本的な対応方策なども検討すべきかも知れない。</p> <p>○教員職員を対象とした人事評価の早期本格実施を求める。</p> <p>【経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置から転記】</p> <p>○研究資金等の外部資金の獲得に努めてほしい。</p> <p>○歳入の多様性の確保及び民間との協働の推進の観点から、競争的資金及び寄付金等の外部資金確保の推進を期待したい。</p>

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

項目別評価

1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>新型コロナウイルス感染症が拡大する中、オンライン授業環境、Wi-Fi環境、学内Live中継授業システムなどの学修環境を整備したこと、年間を通じて対面授業を実施するとともに、リモート留学の試行や留学生に対するオンライン授業による支援を実施するなど、教育の実施体制を維持したことは高く評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍での学習環境を確保するため、オンライン授業のできる環境を構築し、さらに学内Live中継授業システムの導入準備を行った点は評価できる。 ○コロナ禍における教育環境として、Wi-Fi環境、オンライン授業環境、学内Live中継授業システムの導入準備など適切に学修環境の整備を行った点は高く評価する。 ○A評価としている「学内Wi-Fi環境や講義室の情報機器更新」について、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業環境整備のために実施したものであり、計画を上回って実施していると認められる。 ○「語学研修や留学制度」について、コロナ禍で実施できなかったということで自己評価がB評価となっているが、リモート留学を試行しており、A評価に値すると考えられる。コロナ禍でも活動を継続することは、相互の教育機関同士の信頼関係が高まり、今後相互交流が更なる展開につながる可能性がある。 ○「学修環境や教育研究環境の整備」について、Wi-Fiやプロジェクターなどの整備に対してA評価としているが、この対応は重要であり、今後も更なる環境充実が期待されている。文部科学省は今後MDA教育を重視していく方向にあり、大学のIT関連基盤を的確に整備していくことが大切と考える。 ○新型コロナウイルス感染症の影響下、年間を通じて対面授業を実施したことや、リモート留学の試行、留学生に対するオンライン授業による支援等、教育の実施体制の確保につながる取組を実施したことは高く評価できる。

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

また、アクティブラーニング室における授業等は、開始当初（平成28年度）の176コマから増加し379コマとなり、学生の主体的・能動的な学修の観点から評価できる。

引き続き、アクティブラーニング室の効果的な活用等、学生の主体的・能動的な学修に向けた取組を期待する。

GPA（成績評価平均値）を活用した成績不振者に対する個別指導について、面談対象者が春学期の21人から秋学期3人へと減少しており、評価できる。

引き続き、効果的な授業実施に努めるとともに、GPAを活用した学生の育成、付帯する国際芸術センター青森の活用等、独自性を生かしたカリキュラムの検討、良好な学修環境の整備を図ることを期待する。

○A評価としている「アクティブラーニング室の有効活用」については、設置以降、順調に活用コマ数が伸びており、計画を上回って実施していると認められる。

○アクティブラーニング室の活用が伸び、学生の主体的・能動的な学修を進めており評価できる。

○「授業やゼミ活動等により、アクティブラーニング室の有効活用を図る」の自己評価がAとなっているが、単純に利用回数増加すればよいというものではない。利用時の競合状況や活動内容なども問われるといえる。B評価程度が妥当ではないか。

○「GPAを活用した基準に基に、成績優秀者表彰及び成績不振者の個別指導を継続して実施する」の自己評価がBとなっているが、表彰活動を確実に実施すると共に、成績不振者の個別指導が効果を発揮している。中期計画でも成績不振者の減少傾向が見られるが、令和2年度においても面接実施対象者が春季の21名から秋季には3名と激減している。このような状況を踏まえればA評価に値すると考えられる。

○カリキュラムが見直されて、新たな科目が4科目設けられたが、青森公立大学の独自性、特徴を活かしたカリキュラムとして、付帯している国際芸術センター青森の存在を活用した芸術教育・アート教育なども是非とも検討して頂きたい。

○「食堂・売店などの満足度向上」については、自己評価がBとなっているが、アンケート調査では満足度が3.0から3.3に向上しており、今後も食堂解放時間の延長などの様々な努力が期待される。

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

<p>学生の受入について、教員によるデータ分析チームの分析に基づき、新たに秋田市で進学説明会を実施、参加者を確保し、今後も継続的に実施することは、学生確保の観点から評価できる。</p> <p>一方で、大学院課程については、入学定員6名に対し入学者2名となっており、志願者の確保に向け、教育の実施体制及び内容の検討を求める。</p> <p>学生のキャリア支援について、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、県内企業バスツアーを1コース追加して実施するなどの取組により、99.3パーセントという高い就職率を確保したことは評価できる。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none">○本学への入学希望者増加を図るため、教員による分析チームを組織し、その結果に基づいて秋田市において進学説明会を試行し、今後も継続実施するということは学生確保の観点から大いに評価できる。○データ分析チームによる秋田での志願者増加傾向の分析に基づき、新たに秋田市で進学説明会を実施し、参加者も確保できたことは評価できる。○「大学院において、入学定員と同数程度の志願者を常に確保するため、学部からの進学を促進させる」についての自己評価がBとなっているが、現実には学内からの1人と社会人の1人の合計2名となっており、C評価が妥当ではないか。○大学院について、志願者確保のため「履修証明プログラム」を開講したことは評価できるが、進学者は2名となっており、志願者確保に向けた一層の取組が必要である。○新型コロナウイルス感染症の発生という状況の中で、県内企業バスツアーを1コース追加して実施したことは評価できる。○県内企業バスツアーについての自己評価はBであるが、コロナ禍においてもさらにツアーコースを追加しており、A評価に値すると考える。○キャリア支援の取組により、中期目標の96%を超える高い就職率を確保したことは評価できる。
---	--

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により学外活動に制約がある中、リモートによる海外研究者との交流・研究や、ウェブ会議システムを活用した学外との交流による授業内容の充実など、可能な限り代替措置を講じ、事業を実施した点は評価できる。</p> <p>戦略的研究助成事業等の実施による研究活動の推進や、公開講座の開催等による研究成果の地域還元が実施された点は評価できる。</p> <p>今後、自治体や地域の企業、団体と連携し、経営・経済という専門性を生かした地域課題解決に向けた研究活動の一層の推進と、積極的な情報発信を期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で例年通りの業務実施が困難であったが、web 会議システムを活用した海外や学外との交流など、可能な限り代替措置を講じ実施した点は高く評価できる。 ○新型コロナウイルス感染症により、学外活動に制約がある状況への対応として、リモートを活用した海外研究者との交流による研究や Web 会議システムを利用した学外との交流を実施したことは評価できる。 ○新型コロナウイルス感染症の影響下、フィールドワークの代替として web 会議システムを活用し学外との交流による研究等を行ったことは評価できる。 ○コロナ禍において研究活動の制約、特に学外活動などの自粛があったものの、代替措置を講じながら、可能な限り事業を実施した点を評価する。 ○コロナ禍においても Web 会議室システムやリモートを活用した海外大学との交流・研究が行われており、今後のグローバル活動の拡大が期待される。 ○学長による戦略的研究助成事業を継続的に実施してきており、今後公立大学の得意とする研究分野の確立や外部資金の順調な獲得、地域課題への緩和・解決策の提示などが期待される。 ○青森公立大学は、経済学や経営学を教育・研究する大学であり、青森県の産業活動を一層発展させていく処方箋、長期的なビジョンについて研究し、地域企業や行政、商工会議所などを巻き込んだ戦略的かつ実践的な活動を仕掛けて頂きたい。 ○公開講座の開催等により研究成果の地域還元が実施された点は評価できるが、専門性を生かした地域課題解決に向けた研究活動の推進と、メディアラボの活用やマスメディアの活用等により、引き続き積極的に情報発信を行うことを期待する。

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。	
------------------------------------	--

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（地域貢献）

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>新型コロナウイルス感染症が拡大する中、ウェブ開催等の代替措置を講じながら、学生が主体となる地域課題解決に向けた活動や、青森市をはじめとする自治体との連携・共同事業、公益財団法人21あおもり産業総合支援センターと連携した起業・創業に向けた取組など、積極的に地域貢献に取り組んだことは高く評価できる。</p> <p>国際芸術センター青森におけるアーティストと市民及び学生の交流を行ったことは評価できるため、更なる活用を期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○一部事業で新型コロナ感染拡大防止のため代替措置にて実施されたものもあるが、計画事業すべてB評価であり、全体として順調な進捗であったと評価する。 ○新型コロナウイルス感染症対策のため、計画どおりに実施できなかった項目もあるが、Web開催などにより、工夫して実施している点は評価できる。 ○青森市の課題解決に向けた取組や、中泊町及び大間町との連携協定に基づく取組など、自治体との連携による地域振興に取り組んだことは評価できる。 ○学生の地域貢献活動に係る研究事業については、自己評価でBとされているが、活動実績として「全国地域ブランド総選挙 風間浦鮫鱈についてのPR活動」や「青森まるっとよいどころ祭り開催事業」などの実績をコロナ禍でも上げており、A評価にあたると思う。なお、これはゼミの研究活動の推進の項目でも該当する。 ○青森市との連携事業で、大学がもたらす経済効果に関する共同研究や研究会・学習成果発表会などへの参加は学生の主体的な修学意欲を高めていると評価され、A評価に値すると思う。また、県内市町村との連携で中泊プロジェクトを実施しているが、このような取り組みは非常に良い学修経験となり、生涯の記憶に残る貴重な経験となるものと想定され、今後連携協定をしている他の自治体にも広がっていることが期待され、A評価に値すると思う。 ○新型コロナウイルス感染拡大の状況下でも、21あおもり産業総合支援センターや市町村等との連携を可能な範囲で積極的に実施しており、高く評価できる。 ○国際芸術センター青森の事業で、海外アーティストから作品を輸送していただいてコロナ禍でも展示会やリモートワークショップを実施したことは非常に価値が高く、A評価に値すると思う。

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

<p>懇談会やオープンキャンパス等による地域の高等学校との連携や、企業訪問やバスツアーの実施による地域への人材定着に向けた取組は評価できる。</p> <p>引き続き地域の人材育成による地域貢献に期待する。</p> <p>クラウドファンディングを活用したねぶた師への支援等、学生による取組も地域に根差した公立大学としての役割を果たすことにつながっている。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<p>○懇談会やオープンキャンパス等による地域の高等学校との連携や、企業訪問やバスツアーの実施による地域への人材定着に向けた取組は重要であり、引き続き期待する。</p> <p>○学生が、ゼミ活動の一環として、クラウドファンディングにより、ねぶた師への支援を行った点は、地域に根差した公立大学としての役割を果たしていると考えられる。</p> <p>○Web制作会社を起業する学生がうまれたり、学生がクラウドファンディングを利用してねぶた師を支援する活動は高く評価される。このような自由で魅力的な活動が広がっていくことが期待される。</p> <p>○学生によるねぶた師支援や情報発信等の取組も地域貢献につながっており、引き続き期待したい。</p>
--	---

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>職員の自己点検や内部監査等の内部統制システムを運用したこと、新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部を設置・開催し、リスクマネジメントを行ったことは評価できる。</p> <p>教員職員の人事評価について、他大学等の調査を行い、評価基準や評価項目、評価手順等を検討し、試行したことは評価できる。 今後、早期の本格実施を求める。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<p>○職員の自己点検や独立的な内部監査が実施される体制が整備され、それが確実に実施されている内部統制システムは自己評価ではAと記されているが、私もA評価が妥当と考える。</p> <p>○A評価としている「業務方法書に沿った内部統制システムの運用」については、評価委員会における説明により、新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部の設置運営が計画を上回って実施されたと認めるが、実績報告書にも記述を行うことが必要と考える。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部を設置・開催した点は評価できる。</p> <p>○青森市長との意見交換の機会重要であり、毎年定期的で開催されることが期待され、自己評価のBではなく、A評価とする価値があると考えます。</p> <p>○教員職員を対象とした人事評価の試行を行ったことは評価できるが、早期の本格実施を求める。</p> <p>○教員職員の人事評価も昨年度から一歩前進し、その他計画も順調に進捗しているものと評価する。</p>

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>受験生確保に向けた取組による検定料の増加等、自己収入の確保に努めている点は評価できる。</p> <p>収入の多様性を確保し、教育研究を安定的に実施するとともに、民間企業、団体との協働を推進するため、研究関連収入及び寄付金等の外部資金確保に向けた取組を求める。</p> <p>財務状況の分析を行い、支出内容の精査や業務改善、事務事業の効率化に努めるとともに、重点事業や新規事業への優先的な予算配分や事業の見直しなどのスクラップ・アンド・ビルドを行い、効率的な予算執行を図っていることは評価できる。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<p>○受験生確保に向けた取組による検定料の増加や外部資金等の自己収入の確保及び経費の抑制に努めている点は評価できるが、研究資金等の外部資金の獲得に努めてほしい。【再掲】</p> <p>○歳入の多様性の確保及び民間との協働の推進の観点から、競争的資金及び寄付金等の外部資金確保の推進を期待したい。【再掲】</p> <p>○令和2年度の予算執行にあたり、財務状況の分析を行い、支出内容の精査や業務改善・事務事業の効率化に努めた点は評価できる。</p> <p>○効果的な予算執行のため、重点事業や新規事業への優先的な予算配分を行っていることは評価できる。</p> <p>○公立的・効果的な予算執行を実施していくため、費用対効果の観点から事業の見直しをスクラップ・アンド・ビルドしていることに対して自己評価ではBであるが、私はこれをA評価に値すると考える。継続的な事業においては判断が甘くなりがちであるが、この視点を徹底させることでより望ましい予算配分がなされると判断される。</p> <p>○年度計画に基づき各項目とも着実に実施され、順調に進捗しているものと評価する。</p>

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>当評価委員会の評価結果を踏まえ、計画を十分に実施していない項目のフォローアップを行い、公表したことや、事務職員に対する人事評価の試行に加え、教員職員の人事評価の試行を開始したことは評価できる。</p> <p>認証評価機関による評価において明らかになった課題の改善の取組を継続していることは評価できる。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の業務実績評価を踏まえ、そのフォローアップなどが適切に行われており順調に進捗しているものと評価する。 ○令和元年度業務実績報告書において、計画を十分に実施していない項目のフォローアップを行い、ホームページ等で公表したことは評価できる。 ○本評価委員会からの「組織・業務運営等に係る改善事項等」について、事務職員に対する人事評価の試行に加え、教員職員の人事評価の試行を開始しており、評価できる。 ○本委員会の意見及び認証機関評価による課題について、改善の取組を継続している点は評価できる。 ○大学院の定員充足率が低いという課題に対して、2019年に入学定員を変更や様々な対応措置を実施している。しかし、一時的に入学者の回復がみられたが、今年度は2名入学に戻ってしまっている。 ○国内の社会科学系の大学院入試の環境は非常に厳しい状況にあり、留学生入学など抜本的な対応についても検討する必要があるであろう。そのためには留学生向けの日本語教育体制を整備するか、英語授業体制に移行していくかなど、長期的な視点からの検討も求められる。

委員意見を踏まえた令和2年度業務実績評価（案）

7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>施設設備の計画的な整備に向け、「公立大学法人青森公立大学インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）」を策定したことや、国際芸術センター青森の活用を図ったこと、安全管理、法令順守等の取組を継続していることは評価できる。</p> <p>今後、施設開放の件数及び使用料の増減要因を分析するなど、付帯する国際芸術センター青森を含め、大学の施設設備の効果的な活用を図ることを期待する。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○青森公立大学インフラ長寿命化計画の策定は、今後の時代環境を想定すれば非常に重要な取り組みである。大学の自己評価では B であるが、私は A 評価に値すると考える。適時に大学施設を計画的に改修することは、長寿命化に寄与するだけではなく、在籍する学生にとっても良好な修学環境下で勉学し、研究をすることができることを意味する。 ○施設設備の整備・利活用等について、コロナ禍でも可能な範囲で代替事業を実施しており、評価できる。 ○施設設備の計画的な整備や安全管理、法令順守等の基本的な取組を継続していることは評価できる。 ○施設開放の件数及び使用料の増減要因を分析し、効果的な施設開放の推進を図ることを期待したい。 ○国際芸術センター青森はコロナ禍においても的確な活動を展開しているが、「青森アートミュージアム5館連携協議会」に参加し、連携活動を展開させ始めており、この活動は青森のアートシーンを大きく変革する可能性があると思われる。付帯施設ではあるが B 評価ではなく A 評価と高い価値があると考ええる。 ○全体的には、年度計画に基づき、中期計画の目標設定に向けて順調に実施していると考ええる。 ○年度計画に基づき各項目とも着実に実施され、順調に進捗しているものと評価する。